

●編集発行
 公益財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構
 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会
 〒963-0115 福島県郡山市南2丁目52番地 ビックパレットふくしま3階
 TEL (024)947-4400 FAX (024)947-4475

■郡山地域テクノポリス推進機構ホームページ <http://www.techno-media.net6.or.jp/>
 ■インキュベーションセンターホームページ <http://www.monodukuri.net6.or.jp/>
 ■Eメール【テクノポリス】 techno@nm.net6.or.jp
 【ニューメディア】 info@nm.net6.or.jp

郡山地域テクノポリスは、高度技術産業の集積による新事業創出を導く、東北のサザンクロス(南十字星)となることを目指します。

●ごあいさつ

「変えるものと変わらぬもの」……………P1

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構 理事長 丹治一郎

●特別寄稿

特集

「郡山地域テクノポリス推進機構と
 日本大学工学部の連携」……………P2

日本大学 工学部長 出村克宣

テクノピック

- 平成26年 テクノポリス新春講演会 ……………P3
- 戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業) ……………P3
- 第14回 産・学・官連携フォーラム ……………P4
- RIA地域間産業交流支援事業の報告 ……………P5
- 福島県再生可能エネルギー
 次世代技術開発事業の報告 ……………P6
- Meister's College2013(マスターズ・カレッジ2013) …… P7-8
- ちびっ子マスターズ・カレッジ ……………P8
- 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター
 「入居企業等成果発表会」……………P9
- 郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議
 全体会・交流会 ……………P10

テクノナウ

- 郡山地域テクノポリスものづくり
 インキュベーションセンターだより…………… P11
- NUBIC(日本大学産官学連携財センター)
 郡山サテライトの開設 …………… P11
- 入居者審査委員会の開催状況 …………… P12
- 入居企業紹介…………… P12
- 郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会 活動報告 …… P13
- アトホック研究会 …………… P15
- 平成25年度 各研究会活動状況報告 …………… P16-18
- 平成26年度 各種助成事業募集のお知らせ…………… P19
- (独)産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所
 開所報告 …………… P20
- ふくしま復興・再生可能エネルギー産業フェア2013…………… P21
- メディカルクリエーションふくしま2013 …………… P21
- こおりやま全市元気応援産業フェア2013 ～夢商い～ …… P21

Techno information

- テクノインフォメーション ●平成25年度 理事会等の開催報告 …………… P22
- 平成26年度の主な事業・イベント…………… P22
- 役員・職員等の紹介…………… P23



変えるものと 変わらぬもの



公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構

理事長 丹 治 一 郎

1986年3月に当機構は財団法人として設立されましたが、その初期の段階から続く活動があります。同年9月に設立されたアドホック研究会(郡山)がそれであり、1991年6月には須賀川方部アドホック研究会が続いて設立されています。

ある会議で、「アドホック」の由来等が話題となり、事務局に話したところ、次のような報告でした。

1 用語「アドホック」

ラテン語の語句で、「特定目的のため」「限定目的の」「当面の問題に限り」といった意で用いられている。

2 財団における「アドホック研究会」の由来

保有資料でこの言葉が最初に見えるのは、1986年5月に郡山地域テクノポリス構想推進協議会が策定した「郡山地域テクノポリス開発構想」の中で、「アドホック研究集団の設立・育成」として出てくる。

当該研究集団は、目的意識を持った企業が集まり、共同研究する組織を意味するものであって、個別具体的な研究テーマをもとに実証研究を行う組織を機構内に設けこれを育成する、とされている。

3 現在のアドホック研究会

現在のアドホック研究会は、会員相互の技術・情報などの交流と幅広い研究を通して、新技術・新商品・新事業の開発と新市場の開拓を促進するとともに、生産・販売面での相互協力を促進し、会員企業の成長発展と地域産業の振興に貢献することを目的に活動している。

時の流れとともに若干の変遷はあるが、研究

開発という目的に変更はない。ただし、現在の研究会は、研究開発を行う組織自体ではなく、そのための組織を形成する上での母集団と位置づけられる。

こうして見ると、当初構想のアドホック事業には、平成23年度から25年度まで当財団が事業管理機関となって取り組んだ戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)と共通するところが多くあります。こうした手法や仕組み作りは30年近い時を経過しても不変なのか、アドホック事業の理念型とサポイン事業の仕組みとは外観的に酷似しています。

サポイン事業の管理という役割に、事務局では相当な苦勞をしていますが、その経験と知識は貴重です。その蓄積を、昨年度から取り組んでいる県からの再生可能エネルギー次世代技術開発事業にも活かせると期待しています。

いわゆる第三セクター活用の利点の一つに、愚直に継続する力ということがありますが、大震災、原子力発電所事故とそこからの復旧・復興の取組みに寄与するには、変化を避けられません。例えば、取り組む分野を製造業だけに固定するには無理があり、既にインキュベーションセンターの入居者の業種にもそうした変化が出ていますし、サポイン事業等への取組みそのものが変化への挑戦となっています。

身の丈に合わせることは当然ながら、変えるものと変わらぬものを日々意識しての挑戦と、そのための体制づくりに並行して努力していこうと考えます。

関係各位のなご一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

郡山地域テクノポリス推進機構と 日本大学工学部の連携



日本大学 工学部長 出村 克宣

サザンクロス誌の中には、郡山地域テクノポリス推進機構の1年間の活動が記録されている。地方中核都市にある日本大学の一学部として、その活動に参加することが産学連携に貢献することになる。日本大学には14の学部があり、それぞれ地域社会との連携活動を実施しているが、大学内では、特に、工学部は目に見える形での実績を残していると評価されている。これは、本学部が地方都市にあることの特徴であり、今後とも地域社会に貢献できるような諸活動を展開しなければならないと考えている。

郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部との連携を改めて探るため、テクノポリス理事会の平成25年度事業実施状況の中から、本学部が関わったものを拾ってみた。本学部が共に主催又は共催したもの、教員が講師やコーディネーターを務めたものなどである。その詳細は本誌を参照されたい。

【技術振興事業】

1. 研修指導事業

(1) 産学連携技術者研修事業

- ① 産学連携製造技術者人材育成事業(マイスターズ・カレッジ2013)／イノベーションマスターコースの講師
- ② ちびっ子マイスターズ・カレッジ／心拍センサーの模型工作他
- ③ 産学連携IT人材育成事業／親子参加型のインターネット等安全教室他

(2) 科学技術交流事業

- ① 研究会開催事業
 - 再生可能エネルギー・環境共生推進研究会／研究会、プレスト懇談会及び視察研修会
 - 機能性材料・製造プロセス研究会
- ② 産学官交流等開催事業
 - 第14回産・官・学連携フォーラム

(3) 技術情報提供事業

NUBIC(日本大学産官学連携知財センター)が連携した産学連携・技術・知財に関する相談

【地域技術起業化推進事業】

1. ものづくり起業家育成・支援事業

(1) 企業連携(アライアンス)の促進

○ NUBICの企業出前セミナー／喜多方市・会津若松市

(2) 研究会活動支援事業

○ 須賀川方部アドホック研究会／3Dプリンタ研修会(セミナー・製作稼働状況見学)

なお、テクノポリスの協力を得て、工学部機械工学科1年生235名が参加してのカンタツ(株)、林精器製造(株)及び山本電気(株)の企業見学会を実施した。ここに記して、関係各位に謝意を表する。

日本大学工学部は土木工学科、建築学科、機械工学科、電気電子工学科、生命応用化学科及び情報工学科と、教養教育のための総合教育教室で構成されている。大学には、教育と研究の成果が求められており、工学部の教員はそれぞれの専門分野で優れた研究業績を挙げている。一方、工学部では約5,000名の学生が学んでおり、将来は我が国を担うエンジニアとして活躍することが期待される。

企業の皆様と話をすると、大学は敷居が高いといわれることが多い。大学教員は専門分野の基礎はもちろん、その先端技術の研究に携わっており、専門分野に関する多くの情報を持っている。しかし、そのことが敷居を高くしていることにはならない。ぜひ、日本大学工学部を郡山地域の工学研究所、換言すれば、郡山テクノポリス圏域企業の金屋の研究所ととらえていただきたいと考えている。又、工学部の知的財産はもちろんのこと、将来のエンジニアである学生諸君の持つポテンシャルを活用していただくことも地域貢献につながり、工学部で直接対応できないときには総合大学としての日本大学のネットワークが活用できる。

そのような連携が郡山テクノポリス圏域産業の活性化に貢献し、技術立国としての我が国の発展につながることを工学部の教職員は期待している。

平成26年 テクノポリス新春講演会

「ものづくりニッポン 技術神話の再考」 ～日本のものづくり産業への警鐘と提言～

開催日 平成26年1月21日(火)

場所 ビッグパレットふくしま 3階「中会議室A」

参加 約100名

主催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構

共催 郡山地域テクノポリス市町村協議会/郡山地域テクノポリス推進協議会/郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

吉川 良三 氏はサムスン電子で10年間常務を務め、1997年末に韓国を襲った金融危機を乗り越えて急成長してきた経験を踏まえ、日本の製造業が急速に競争力を失った原因や韓国・中国をはじめ新興国が急成長した理由、そして日本の製造業はどうしたら再び輝きを取り戻せるのか等についてお話いただきました。



講演では、日本が世界市場で勝てなくなった理由を「産業構造の変化やグローバル化とデジタルものづくりによる社会変化に対応できず、新興国等が要求する商品を生産する体制を構築できなかった」と分析、「これからの日本の製造業は、グローバル競争時代の新しいものづくりへ日本にしかできないことに取り組むことが重要」と提言しました。



平成26年 テクノポリス新春講演会(講演風景)

講師

東京大学大学院経済学研究科
ものづくり経営研究センター

特任研究員 吉川良三氏

プロフィール

- 1963年、日立製作所 入社、CAD/CAMの開発に従事。
- 1989年、NKKエレクトロニクス本部開発部長に就任。
- 1994年、韓国三星電子 常務取締役役に就任、開発革新の推進に従事。
- 2004年より 東京大学大学院経済学研究科ものづくり経営研究センター特任研究員をはじめ、日韓IT経営協会会長('06年～)、東京設計管理研究会 学会会員('07年～)、立命館大学大学院イノベーションセンター客員研究員('08年～)、埼玉大学大学院情報処理研究科 非常勤講師('09年～)を務める。

講演内容

- 日本が世界市場で勝てない理由
- ものづくりにおける産業構造の変化
- 国際化からグローバル化へ
- 日本のものづくり競争力の方向性
- 日本企業復活の提言

戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン事業)

- 経済産業省所管の典型的な中小企業の基盤技術高度化事業で、戦略的基盤技術高度化指針に記載された鍛造、金型、真空など20の分野を活用して川下企業(大手企業等)の技術課題を解決するもの。事業管理機関によるコンソーシアム方式で中小企業の参加が必須となる。
- 3年継続事業の最終年度。1件当たり総額1億円程度の委託事業。
- 平成25年度当該事業が継続事業として承認され、以下の2事業を当財団が事業管理機関として事業展開。

林精器製造PJ研究推進会議



材料科学的アプローチによる厚板鍛造の高度シミュレーション技術の確立

高級腕時計・携帯電話筐体の3次元形状の難加工部品についてはこれまで熟練工の暗黙知に依存してきたが、本開発では、結晶構造解析など内部組織情報とサーボプレスを融合することで課題を解決し生産性を向上させる。

【共同研究体制】

- 林精器製造(株)(総括プロジェクトリーダー)
- 国立大学法人茨城大学(副総括プロジェクトリーダー)
- 福島県ハイテクプラザ(公設試験研究機関)
- 郡山地域テクノポリス推進機構(事業管理者)

標準コンダクタンスエレメントを用いた基準微小ガス流量導入装置の開発

高真空・超高真空を測定するこれまでの真空計は適切な校正方法が無かったため、ステンレス製多孔質焼結体(標準コンダクタンスエレメント)の改良開発によるガスフィルター製造技術と微小ガス流量発生・測定技術を組み合わせ、専門的知識と習熟を必要としない新たな真空計測器の中枢部分を担う装置を開発する。

【共同研究体制】

- 独立行政法人産業技術総合研究所(総括プロジェクトリーダー)
- (株)ピュアロンジャパン(副総括プロジェクトリーダー)
- (株)アルバック(川下企業)
- 郡山地域テクノポリス推進機構(事業管理者)

平成25年度が最終事業年度となり、2事業それぞれ、計画通りの研究成果を達成している。

第14回 産・学・官連携フォーラム

開催日 平成25年10月24日(木)

場所 日本大学工学部50周年記念館(ハットNE)大講堂

参加 約150名

主催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構

日本大学工学部工学研究所

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

第14回 産・学・官連携フォーラムは、日本大学工学部を会場に行われました。

平成26年4月に独立行政法人産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所(以下「産総研」という。)が郡山市に開所されるにあたり、産総研が保有する様々な技術を地域企業が活用することによって、地域で抱える技術的課題や事業課題などを克服すると共に、新しいビジネスを開発、展開することが期待されます。

今回のフォーラムでは、「福島の更なる飛躍に向けて! ~産総研と地域企業との連携を目指して~」と題し、産総研と地域企業との効果的かつ実務的な連携に視点を置き、特別講演では産総研の基礎研究から製品化まで切れ目のない本格研究、多彩な研究分野にわたる成果事例や課題のほか、企業との連携の仕組みやその具体的な事例について、分かり易く説明して頂きました。

また、パネルディスカッションでは、産総研と実際に連携している県内の企業をパネリストに迎え、産総研との連携の仕組みや事業の成果、課題などについて、参加者を交えながら活発な意見交換が行われました。



主催者挨拶: (公財)郡山地域テクノポリス推進機構 理事長
郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会 会長
丹治 一郎



主催者挨拶: 日本大学工学部 工学部長
大学院工学研究科長 出村克宣 氏

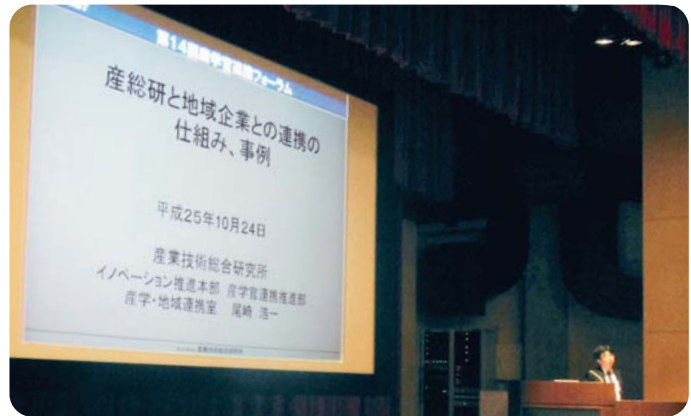
特別講演

テーマ 産総研と地域企業との連携の仕組み、事例

講師 独立行政法人産業技術総合研究所
イノベーション推進本部 産学官連携推進部
産学・地域連携室長 尾崎浩一 氏



特別講演講師
尾崎浩一室長(産総研)



パネルディスカッション

座長

日本大学工学部
工学研究所次長
柿崎隆夫 氏



パネリスト

独立行政法人産業技術総合研究所
イノベーション推進本部 産学官連携推進部
産学・地域連携室長 尾崎 浩一 氏

株式会社東邦銀行 法人営業部 部長 齋藤 哲 氏

株式会社アリーナ 代表取締役社長 高山 慎也 氏



パネルディスカッションの様子



パネルディスカッションのパネリスト3名
左から 尾崎室長、高山社長、齋藤部長

RIA:地域間産業交流支援事業の報告 「福島県 郡山地域」と「韓国 江原道 原州地域」との医療福祉関連機器開発プロジェクトの推進

事業実施主体【日本側】公益財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構
【韓国側】財団法人 原州医療機器テクノバレー

実施日 平成25年4月1日～平成26年3月31日

実施場所 日本:福島県 郡山地域、韓国:江原道 原州地域

原州市で建設中の 企業都市「MediPolis」

医療関連産業の集積新都市
(敷地150万坪)



(財)原州医療機器テクノバレーの事業拠点「MCC原州医療機器総合支援センター」
竣工式は2013年9月5日

「(公財)郡山地域テクノポリス推進機構」は、平成21年(2009年)11月に韓国 江原道 原州にある「(財)原州医療機器テクノバレー」との間で『医療福祉機器開発相互協力協定』を締結した。以来JETROの中小企業向け産業交流支援事業の一つである「RIT (Regional Industry Tie-up program):地域間産業交流支援事業」による支援のもと、事業実施主体である当機構と原州医療機器テクノバレーとの連携を通して、「郡山地域テクノポリス圏域及び近隣産業集積地の中小企業群」と「韓国 江原道 原州地域の医療機器産業クラスター」が、医療福祉関連機器の共同研究開発や商品化・市場化を目的に、日韓双方の企業で技術研究会を実施し、相互の企業視察や展示会参加による商談の促進などを通して、両地域の産業振興と社会発展を念頭に、医療福祉関連機器創出の分野に力点を置いた多角的な産業交流支援活動を行っています。

両地域の企業がこの事業を展開していく中、「3.11 東日本大震災」発災による騒乱に遭遇しつつも、この事業は、その後も途

切れることなく、それまで培ってきた両地域間の相互信頼関係と絆で、協力関係が更に力強く持続され、活発化されて来ました。

平成24年度末にはJETROのRIT支援事業を終え、平成25年度(2013年)からは 郡山と原州の両地域の協力で「RIA (Regional Industry Alliance program)」として、新たな船出し、医療福祉機器開発に係る技術開発協議や啓発セミナー/シンポジウムを開催し、医療福祉機器関連の展示会への出展や商談会等に臨みました。また24年度に行った「日韓共同医療機器開発プロジェクト基本調査」事業に引き続き、25年度は「日韓共同で新たな医療機器開発プロジェクトを立ち上げるための具現的な調査」業務の促進を行いながら、両地域の企業と医療施設プレインの共同参加に配慮した、医療Project構築の為にMaster Planを作成中です。医療福祉機器関連産業創出のために更なる地域間連携を強め、郡山と原州の両企業支援機構[テクノポリスとテクノバレー]は、産業振興、地域発展に努力しています。

■**2013年7月**: (公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部工学研究所の主催による平成25年度「第1回 医療・福祉機器等関連新事業創出研究会」に「原州医療機器産業クラスター」の2企業: Hyun Medics, Seawon Industrial Co.,Ltdを招聘し、それぞれが「開発に挑戦する医療機器と日本よりの協力」と題してプレゼンと商談に参加しました。また(財)原州医療機器テクノバレー 企業支援本部長 咸 基榮氏が「韓国の医療機器産業の動向と日韓共同医療機器開発プロジェクトの推進」と題して、企業の技術開発状況と江原道の産業紹介及び原州の医療福祉関連機器開発計画についてシンポジウムを実施しました。

■**2013年9月**: 原州で開催された「第8回 江原医療機器展示会GMES2013」に郡山地域の医療福祉機器関連企業4社[ひさき設計株式会社(リハビリゴールと携帯型放射線量測定器)、テレジャパン株式会社(睡眠モニター)、株式会社東鋼(整形外科手術鉗子)、有限会社エスグ(循環器外科用ステント類)]と1大学研究室[日本大学工学部長尾研究室(整形外科用神経伝導計測装置)]が出展し、技術協議や商談を展開。共同開発事業が促進された。また同行された(公財)郡山地域テクノポリス推進機構アライアンス会議会長、福島県商工労働部は原州の医療機器専用工業団地「東華先端医療機器工業団地」や、「延世大学医学部 臨床試験センター」、「企業都市(MediPolis)」と

9月5日に竣工したばかりの医療機器開発メッカとして、医療機器開発に係るOne-stop Service Systemを形成し、(財)原州医療機器テクノバレーが事業推進拠点としている「MCC原州医療機器総合支援センター」及び「革新都市(Innovation City)」を視察し、江原道副知事、原州副市長を表敬した。

■**2013年10月**: 郡山で開催された「第9回 医療機器設計・製造展示会&最新技術セミナー:メディカルフューションふくしま2013」に原州医療機器産業クラスターの企業3社[Hyun Medics(超スリム型薬液注入器)、N-CARE株式会社(乾熱性治療式パラフィンバス)、Taeyeon Medical株式会社(整形外科手術用各種鉗子)]が同展示会に出展した。江原道庁と原州市庁及び(財)原州医療機器テクノバレーは副知事、郡山市長を表敬した。また同展示会会場セミナーにて「Synex Consulting Co.,Ltd: 金 玲 代表理事」が「韓国における医療機器関連産業の現状と日本企業に求めること」と題して講演を行った。

■RIT/RIA地域間産業交流支援事業の実施でえられた成果として、これまで原州と郡山 両地域の企業間で行った商談件数は77件、「技術開発協定」を取り交わした企業等が7件、成約見込み企業件数が22件となっている。これらの企業は現在、技術協力内容の交渉中、製品の完成化に向け事業促進中です。



原州の企業による7月の医療福祉機器等関連新事業創出研究会での取組み



同研究会での(財)原州医療機器テクノバレーのプレゼン



GMES2013参加原州市庁表敬訪問(1)



GMES2013参加原州市庁表敬訪問(2)



GMES2013開会式とMCC竣工式典



GMES2013展示ブース【日本大学工学部】



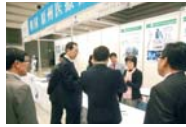
GMES2013展示ブース【ひさき設計】



GMES2013展示ブース【㈱テレジャパン他4社】



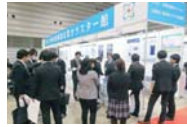
メディクリふくしま2013開会式 原州市庁モテアパカット



メディクリふくしま2013原州医療機器産業 展示商談(1)



メディクリふくしま2013原州医療機器産業 展示商談(2)



メディクリふくしま2013原州医療機器産業 展示商談(3)



メディクリふくしま2013セミナー【韓国の医療コンサル:Synex】



メディクリふくしま2013 Synexによる講演風景

福島県再生可能エネルギー一次世代技術開発事業の報告

- 応募テーマ: 再生可能エネルギー利用次世代型農業施設開発
- 計画名: 農業施設用ハイブリッド再エネ利用システムの実用化

事業の形態 補助事業

事業実施主体 申請者: 公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構

連携先: 株式会社内藤工業所、株式会社リゾーム、エスケー電子工業株式会社、株式会社スズキ製作所

技術支援: 日本大学

事業支援体 福島県商工労働部産業創出課

事業期間 平成25年度～平成27年度

実施期間 平成25年10月3日～平成26年3月31日
(平成25年度)

施設の建設場所 岩瀬牧場内(福島県岩瀬郡鏡石町桜町225)

福島県再生可能エネルギー一次世代技術開発事業概要

福島県は、復興計画の柱に再生可能エネルギーの推進を掲げ、「ふくしまからはじめよう。」のローガンの下、新たに県内企業などによる次世代技術開発を支援すること等により、日本、さらには世界を先導する「福島発」の再生可能エネルギー技術の創出を目指すものです。

募集 テーマ

- ① 藻類バイオマス生産及び利活用技術の開発
- ② 水素利用蓄エネルギーの有効活用技術の開発
- ③ 再生可能エネルギー利用次世代型農業施設開発
- ④ 福島県における再生可能エネルギー大量導入に向けた再生可能エネルギー発電システムの開発及び解析

■平成25年9月「(公財)郡山地域テクノポリス推進機構」は、平成25年度「福島県再生可能エネルギー一次世代技術開発事業」の公募(公募期間平成25年8月30日～平成25年9月20日)テーマ③に提案しました。

研究開発の概要は、植物の生理学・地域の特性等、作物の育成ステージに応じた最適なエネルギーを供給することを目指し、再生可能エネルギーの地中熱、太陽光・熱、及び風力の最適な組み合わせシステムを開発しようとするものです。

■平成25年10月に提案が採択され、県の補助事業としてスタートを切りました。

■平成25年11月郡山地域テクノポリスものづくりインキューベーションセンター会議室にてキックオフミーティングを開催しました。参加者は、連携企業4社、技術支援機関日本大学工学部、福島県産業創出課及びテクノポリスからの14名となりました。

終了後、実験温室の設置場所の視察を行いました。

■平成25年12月連携企業・日本大学に園芸施設の専門家と生産者を加え実験用ハイブリッド温室の仕様の検討を重ね仕様

と全体の構想図を作成しました。併せて実験栽培用の苺の苗を準備した。

■平成26年1月ハイブリッド温室に必要な熱量16.9kwを供給する為の地中熱用パイプを岩瀬牧場に搬入し工事が開始した。これと並行して実験用ハイブリッド温室と比較用の従来温室の着工をした。

■平成26年2月発電能力は10kwをパワーコンディショナーにより商業用電源に接続また又系統連携システム構築による電源バックアップシステムの設備の着工をした。

■平成26年3月

農業施設用ハイブリッド再エネ利用システムを構成するハイブリッド温室、地中熱システム、太陽光発電システムが竣工しました。

そして、苺の栽培実験を開始しました。

以上の結果を福島県へ報告しました。

平成26年度も研究開発を継続実施する予定です。

再生可能エネルギー実験施設

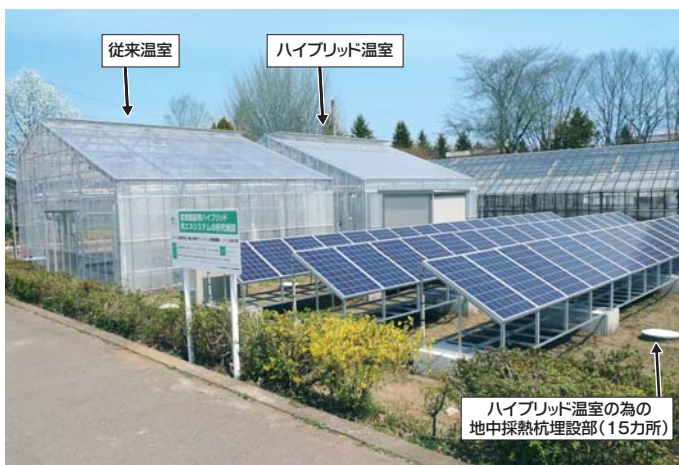
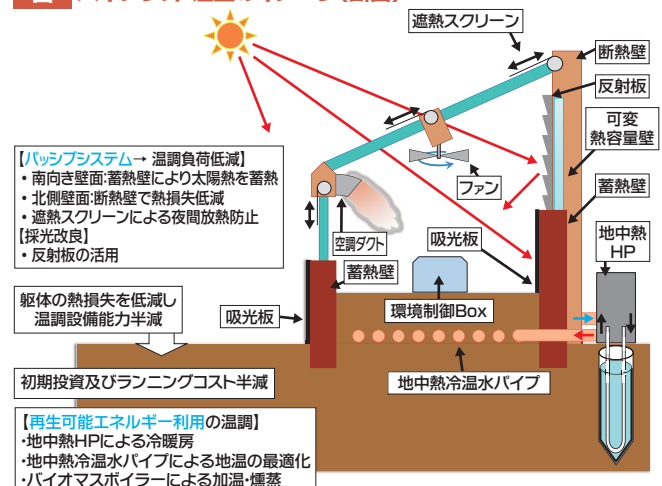


図 ハイブリッド温室のイメージ(断面)



「Meister's College 2013 (マイスターズ・カレッジ2013)」

人材育成事業

人材育成事業

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、ものづくり中小企業の中核となる技術者の方を対象に、日本大学工学部・福島県立テクノアカデミー郡山等との産学連携により、基盤的製造技術の高度化を図る人材育成事業として、平成18年度から継続開催している「Meister's College」(マイスターズ・カレッジ)を実施しました。

今年度は、ものづくり製造技術等に関する多様なイノベーション技術・知識の習得、大学の持つ革新的な研究分野の紹介・技術シーズの提供などを目的とした「イノベーションマスターコース」、マシニングセンターのプログラミングや加工技術を習得する「マシニングセンターコース」、技術力・経営力の強化のための「MOT (ものづくり技術経営学)コース」の3コースを設け実施しました。



開講式の様子(両コース合同)

	イノベーションマスターコース	マシニングセンターコース	MOTコース
受講対象者	製造業企業の技術者等	製造業企業の技術者等	中小企業の技術者・中堅管理者
受講者数	19名	14名	9名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり製造技術等に関する多様なイノベーション技術、知識の習得 大学の持つ革新的な研究分野の紹介、技術シーズの提供等 座学と実技が密接にリンクした実践的な研修 	<ul style="list-style-type: none"> マシニングセンターのプログラミング及び加工技術等の習得(使用するマシニングセンターは、(株)森精機製作所製) マシニングセンターに係るプログラム(3次元CAD/CAM)の入門編 マシニングセンターに係る工具(刃物)の知識 	<ul style="list-style-type: none"> 中小企業の技術力・経営力の強化のための短期集中セミナー
構成	<ul style="list-style-type: none"> ◆開講式及び基調講演 ◆座学研修 9時間(1.5時間×6回) ◆実技研修 12時間(2時間×6回) ◆工場見学会 ◆閉講式及び交流会 	<ul style="list-style-type: none"> ◆開講式及び基調講演 ◆3次元CAD/CAM・プログラミング 12時間(3時間×4回) ◦マシニング操作 4時間(2時間×2回) ◆工具(刃物)の知識 6時間(2時間×3回) ◆工場見学会 ◆閉講式及び交流会 	<ul style="list-style-type: none"> ◆MOT(ものづくり技術経営学)の基礎講座 ◆少人数による短期集中講座 1日間(6時間)
研修期間	平成25年10月17日～12月3日 毎週火曜日・木曜日 午後6時30分～	平成25年10月17日～12月3日 毎週水曜日・金曜日 午後6時～	平成26年2月18日 午前10時～午後5時
研修場所	郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 日本大学工学部	郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 日本大学工学部	郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター
講師	日本大学工学部教授等(7名)	福島県立テクノアカデミー郡山教職員(2名) 民間企業(3名)	芝浦工業大学大学院教授(1名)

イノベーションマスターコース

「イノベーションマスターコース」は、日本大学工学部の教授等を講師に迎え、期間中の延べ14日間にわたり『繊維強化複合材料』『除染ロボット技術』『3Dプリンタ』『金属材料』『廃棄ガラスリサイクル技術』及び『電波応用技術』の6つのテーマについて、基礎から専門的分野までの多様な知識と要素技術の研修を行いました。

特に、除染ロボット技術では、除染作業や廃炉作業で活動している又は現在研究が進められている先端ロボット技術についての紹介とロボット制御のための基本や操作手法について学びました。また、3Dプリンタでは、プリンタの原理や製品、今後の可能性について座学で学んだあと、実習として3Dスキャナーと3Dプリンタを使い、粉末固着積層法(石膏)で自分の顔の製作に取り組みました。

受講者アンケートでは、「基礎を学ぶのに解り易かった。」「通常業務では学ことができないで勉強になりました。」などの声も寄せられました。

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
座学 繊維強化複合材料の開発	座学 放射性物質除染技術と除染ロボットシステム	座学 デジタルデザインにおける3Dプリントの可能性	座学 金属材料の基礎	座学 廃棄ガラスのリサイクル技術 廃棄ガラスが着色ビンおよび鉛含有ガラスの場合	座学 電子レンジや医療機器を中心とした電波応用技術の紹介
実習 複合材料の作製と材料試験	実習 レーザースキャナに基づいたロボットの位置決め制御	実習 3Dプリント実習	実習 金属材料の力学的性質の評価方法	実習 廃棄ガラスのリサイクル技術の実験例 廃棄ガラスからの鉛の回収	実習 電子レンジの電波漏洩と均一加熱に関する測定実習
【講師】 材料工学研究室 中村 理恵	【講師】 サステナブルシステム研究室 遠藤 央	【講師】 生産システム工学研究室 小林 義和	【講師】 材料強度物性研究室 高木 秀有	【講師】 物理学研究室 森 英嗣	【講師】 マイクロ波工学研究室 追山 哲幸

工場見学会・閉講式・交流会 「マシニングセンターコース」と合同で実施



第1回 実習



第2回 実習



第3回 実習



第6回 座学



第6回 実習

マシニングセンタコース

「マシニングセンタコース」は、福島県立テクノアカデミー郡山の先生方と民間企業の方を講師に迎え、期間中の延べ13日間（開講式、工場見学・閉講式含む）にわたり、研修を行いました。

まず、12時間（4日間）のカリキュラムにて、マシニングセンタに関する三次元CAD/CAMについて説明を受けた後、実際にソフトウェアを使ってプログラミングを行いました。

その後、受講生を2グループに分けた少数精鋭により先に組んだプログラムを基に、4時間（2日間）の実機操作を体験しました。

最後に、民間企業の方を講師に招き、マシニングセンタで使用する工具（刃物）の使用方法や段取り操作改善の手法などについて、実習を交えて学習しました。

受講者アンケートでは、「三次元CAD/CAMのプログラムの基礎が理解できた。」「工具のドリルについて多様な知識を習得できて良かった。」などの声も寄せられました。

プログラム (3次元CAD/CAM)の入門編 —プログラミング—

【講師】
福島県立テクノアカデミー郡山 精密機械工学科
副教務主任 花見 敬士
副教務主任 成瀬 哲也

工具(刃物)の知識① (マシニング実習付)

【講師】
株式会社タンガロイ



プログラミング

プログラム (3次元CAD/CAM)の入門編 —マシニング操作— 実習①

【講師】
福島県立テクノアカデミー郡山 精密機械工学科
副教務主任 花見 敬士
副教務主任 成瀬 哲也

工具(刃物)の知識② (マシニング実習付)

【講師】
三菱マテリアル株式会社



実機操作

プログラム (3次元CAD/CAM)の入門編 —マシニング操作— 実習②

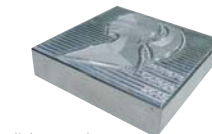
【講師】
福島県立テクノアカデミー郡山 精密機械工学科
副教務主任 花見 敬士
副教務主任 成瀬 哲也

工具(刃物)の知識③ (マシニング実習付)

【講師】
株式会社イマオ コーポレーション



工具刃物の知識



講座による加工品



交流会の様子(両コース合同)



工場見学会の様子(いわき市タンガロイ南)

MOT(技術経営)特別コース

このMOTコースは今年度で4回目を数え、毎年、秋に実施しているマイスターズ・カレッジの一環として行われ、技術経営分野を習得することを目的に短期集中講座として、1日間の開催で行われました。

今回は、日本のMOT(技術経営)を牽引する、芝浦工業大学大学院の平野教授を講師にお迎えし、『グローバル化時代を生き抜くイノベーション戦略—製品開発の考え方を中心に—』をテーマに、中小企業における技術経営の基礎的な部分について学んで頂きました。

特に、午前の部は「なぜイノベーションなのか?」「経済学と企業経営」の2講座、午後の部は「技術戦略論の罫」「市場の意味と製品戦略論」など4講座について、ぜひ習得しておきたいポイントを重点的にかつ分かり易くご説明していただき、受講された企業の経営者の方々も熱心に聴講されていました。

受講された参加者の声として、大半の方が「大変参考になった。」との感想が寄せられ、短時間ではありましたが有意義な研修となりました。

講座 内容

- ・なぜイノベーションなのか?
- ・市場の意味と製品戦略
- ・経済学と企業経営
- ・製品を超えるもの
- ・技術戦略の罫
- ・これからのイノベーション戦略



講師 平野教授

講演 グローバル化時代を生き抜く イノベーション戦略

—製品開発の考え方を中心に—

講師：芝浦工業大学大学院 工学マネジメント研究科
教授 平野 真氏

日時：平成26年2月18日(火) 10:00~17:00

場所：郡山地域テクノポリスものづくり

インキュベーションセンター(日本大学工学部内)

参加：9名

【講師プロフィール等】

1952年東京都出身、NTT先端技術研究所(主幹研究員、Gリーダー)、NEL AmericInc. (Director)、高知工科大学(大学院起業家コース、教授、コース長)などを

経て2012年より現職。
学位：早稲田大学応用物理学科卒、理学修士(早稲田)、
博士(工学、早稲田)、MBA(Temple Univ. PA, USA)
博士(学術、早稲田)

専門領域：技術経営論、知識経営学、起業論、イノベーション論



受講風景

ちびっ子マイスターズ・カレッジ

「君は未来のエンジニア」

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、日本大学工学部と連携し、小学生を対象に「ものづくり」の楽しさと建築・電気・機械などの工学への理解を深めることを目的とした子ども向け事業「ちびっ子マイスターズ・カレッジ」を開催しました。

今回は、小学生の夏休みを利用した親子参加型の体験教室で、講師に、日本大学工学部電気電子工学科教授の尾股定夫氏、同工学科医療工学研究室工学博士の春田峰雪氏をお迎えし、講義や工作を通じて、「電気の仕組みや役割」について学習しました。

また、親子で電気回路の基盤のボタンを指で押すと、血液の流れを感じし、発光ダイオードランプが自分の心拍にあわせて点滅する「心拍センサー」を作り、電気への興味を深めていました。

昼食後は、次世代工学技術研究センター内の動物実験室や、CTスキャナーによるX線断層写真撮影の模様などを見学し、あらためて電気への理解を深めました。

当財団では、今後も、小・中学生向けのマイスターズ企画を実施する予定です。

開催日 平成25年7月27日(土)

場所 日本大学工学部 次世代工学技術研究センター

参加 親子20組47名

主催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構
日本大学工学部



出村学部長挨拶



工作の様子



動物実験室の様子



記念撮影

郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター 「入居企業等成果発表会」

開催日 平成25年12月6日(金) 13:30~16:00

場所 郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター

参加 約60名

主催 (公財)郡山地域テクノポリス推進機構

成果発表企業 入居企業等5社によるプレゼンテーション

入居企業等7社のポスターセッション

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、「郡山地域ものづくりインキュベーションセンター」入居企業の研究成果を広く周知するとともに起業化・事業化を支援するため、「入居企業等成果発表会」を開催し、当インキュベーションセンターを卒業した企業2社、入居中の企業3社より、それぞれ約15分間、研究開発の技術の有用性及び特長及び成果について、プレゼンテーションを行っていただきました。

プレゼン終了後、エコボンド環境工学リサーチ株式会社と神田産業株式会社の2社から成果等の紹介をいただきました。

- エコボンド環境工学リサーチ株式会社からは、除染作業の効率化と除染率向上を図るために研究開発された「イーコン・ポリイオン工法」による除染を当センター入口付近で実

施していただくとともに除染高压洗浄車を作動してのデモンストレーションをしていただきました。

- 平成25年11月末に卒業した神田産業株式会社からは、「だんぼっち(パーソナル防音室)」の製品を紹介いただきました。また、ポスターセッションでは、入居企業等が各ブースにおいて各企業の製品やパネルなどの展示を行ない、研究成果を披露しました。

当日は、約60名の来場者があり、入居企業等の「ものづくり」に対する熱い情熱を感じていただきました。

当財団では、今後も、入居企業の研究成果の発表の機会を提供して参ります。



プレゼンテーション



「イーコン・ポリイオン工法」による除染



除染高压洗浄車の展示



だんぼっちの紹介



製品展示とポスターセッション

成果発表企業一覧

支援室No.	名称	本社所在地	業種等	研究開発成果
入居企業等プレゼンテーション・ポスターセッション				
卒業企業	神田産業株式会社	須賀川市	段ボール箱の製造販売	段ボール素材による付加価値商品の開発
卒業企業	(一社)脳と心の健康科学研究所 (プレゼンのみ)	郡山市	健康サービス業	・高齢者の脳と心の健康モニターシステムの開発 ・高齢者の脳と心の健康増進プログラムの開発
1・2	エコボンド環境工学リサーチ株式会社	広島県	除染技術の高度化、 研究開発・施工等	「イーコン・ポリイオン工法」による 水処理技術の開発と高度化事業
6	株式会社ニチオン	千葉県	医療機器製造・販売	・次世代内視鏡外科手術用鉗子の開発 ・内視鏡用洗浄機の開発
8	株式会社テレジャパン	郡山市	クラウドサービス・通信機器の 企画開発	・パワーコンディショナー向け無線アダプターの商品化 ・睡眠センサー向けメッシュネットワークの開発
ポスターセッション				
卒業企業	株式会社向山製作所	大玉村	電子部品組立加工	食品関連の製造販売 (独自レシピによる生キャラメルとプリン等)
5	PSP株式会社	東京都	情報通信業	遠隔画像診断支援コンピューターシステムの開発
7	オクト産業株式会社	東京都	工業デザイン 製品企画・設計	電磁誘導発電による自立給電システムの開発

郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議 全体会・交流会

研究会活動報告

開催日 平成25年6月12日(水)／平成26年2月10日(月)
場所 ホテルハマツ／ビッグパレットふくしま

参加 36名／27名
主催 郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議



内藤清吾会長

戦略的アライアンス形成会議は、郡山テクノポリス地域などの中小製造業者が保有する技術力、設備、営業力等の潜在能力を戦略的に活用する組織(アライアンス)を構築することによって、高度な研究開発、新しい受発注及び各種産業振興支援施策の担い手となり、地域産業の活性化を図ることを目的としています。平成26年3月末現在、46社が参画しています。

事業方針

- ①会員企業の技術連携を図り、高度技術や複合技術を必要とする難度の高い特注品・試作品・完成品等を含む受注の確保を目指す。
- ②会員企業の技術連携を図り、新製品・新商品の開発、ソフトの開発、新事業の創出を図るとともに販売戦略など成果実現を目指す。
- ③企業相互の強みを生かしたアライアンス(企業連携)を強化し、新たな付加価値の創出を図るなど、技術力の向上を目指す。
- ④本地域・アライアンス形成会議の知名度アップを図る。

当形成会議への入会は随時受け付けています。詳しくはテクノポリス推進機構事務局までお問い合わせください。



役員会



総会・全体会

当形成会議では、去る2月10日にビッグパレットふくしまにおいて、会員相互の情報交換の場として『アライアンスセミナー』(全体会・交流会)を開催しました。

各研究会(「再生可能エネルギー・環境共生推進研究会」、「医療・福祉機器等関連新事業創出研究会」、「機能性材料・製造プロセス研究会」)の開催状況及び受発注の実績、企業訪問の活動状況について事務局から報告した後、福島大学次期学長の中井勝己同大うつくしまふくしま未来支援センター長が「震災復興と福島大学の取り組み」をテーマに講演を行いました。また、当財団の宮越稔郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンターマネージャーが、地中熱の農業利用への取り組み事例を紹介しました。終了後、会員相互の意見・情報交換の場として交流会を開催しました。

講演 震災復興と福島大学の取り組み



講師 中井勝己教授

講師:福島大学
うつくしまふくしま未来支援センター長
中井 勝己 氏

大学が東日本大震災と東京電力福島第一原発事故で受けた被害について説明した。地域に向けた災害支援活動と災害から学んだ教訓を生かし、地域の現実を直視し、研究成果を還元する教育重視の人材育成大学を目指したいと述べました。



講師 中井勝己教授

事例紹介 地中熱の農業利用への取り組みについて

講師:郡山地域テクノポリスものづくり
インキュベーションセンター
マネージャー 宮越 稔

浅部地中熱の農業利用をすすめるプロジェクトである「農業施設用ハイブリット再エネ利用システムの実用化」技術開発事業のあらましについて事例紹介をした。



事例紹介 宮越稔マネージャー

郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンターだより **新事業創出育成事業**



建物外観

当財団では、国、福島県、郡山市、日本大学工学部等の助成を受け、平成18年8月に「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」を日本大学工学部キャンパス内に建設し、その管理・運営を行っています。

同センターは、ものづくりによる新たな産業の創出を促進するための支援施設で、企業等の入居スペースのほか、研究開発による試作品を製作するための工作機械を備えた東北初の試作センターや40人収容可能な会議室を併設しています。

また、研究開発・事業化支援のための専門家を配置し、様々なサポートをハード・ソフトの両面から提供するとともに、郡山地域を中心とした大学等の知的財産や産業支援ネットワークを活用し、入居企業等の要望に応じて、技術シーズの事業化を支援しています。

さらに、入居企業の研究成果を広く周知するために、「成果発表会」の開催やセンター内の「展示コーナー」に、研究開発成果品の展示など、PRの機会を提供しています。

新製品の研究開発による新事業創出の成功確率を高めるため、研究開発の指導者がいる大学の敷地内に、試作品を設計・製作する**《場》**、試作のための基本的な**《設備》**、経営・技術両面での支援のための**《人材》**、そして、研究開発成果を広く発表する**《機会》**を提供します。



起業支援室(実験室タイプ)



起業支援室(事務室タイプ)



試作センター



展示コーナー

展示コーナーのご案内
インキュベーションセンター内の1階にある「展示コーナー」に当センター・支援室を卒業した企業の研究成果品を展示してありますので、ぜひご覧ください。

No	研究開発成果品	入居企業名等
1	マイクロデバイス	乾マテリアリコック(㈱ピーアンドエム連携)(卒業企業)
2	完全無血培養液	乾マテリアリコック(㈱ピーアンドエム連携)(卒業企業)
3	アクチュエーター	(㈱ピーアンドエム)(卒業企業)
4	乳がんチェッカー	(㈱タウザー研究所)
5	尿失禁診断装置	(㈱タウザー研究所)
6	聴覚感覚ヘッドホーン	(㈱タウザー研究所)

支援メニュー

場 日本大学工学部キャンパス内に新製品の研究開発拠点として、低廉な料金で入居可能な**起業支援室(11室)**を提供。(24時間365日利用可)

設備 試作品の製作に必要な各種工作機械を備えた**試作センター**を併設。(高精度立体加工用マシニングセンター等を設置)

人材 ● **インキュベーションマネージャー**による経営・技術両面でのアドバイスや各分野の専門家・支援機関などの紹介。

● **技術指導員**による試作センターでの試作品製作の際の技術指導。

● **技術コーディネーター**による研究開発・起業化の助成支援、各分野の研究会開催、大学・公設試験研究機関等の研究者との連携。郡山テクノポリス圏域企業によるアライアンス(企業連携)形成への参加等。

機会 入居企業の研究開発成果をマスコミや関係者に広く周知し、起業化・事業化を支援するための**成果発表会**やセンター内の**展示コーナー**への成果品展示などの機会を提供。

No	研究開発成果品	入居企業名等
7	聴覚感覚調整器	(㈱タウザー研究所)
8	人体模型ガラス管一式	(㈱ウィルファイン)(卒業企業)
9	バスケットワイヤーカテーテル	(㈱ウィルファイン)(卒業企業)
10	最小侵襲手術用鉗子	(㈱フソコ)(卒業企業)
11	ハニリアル材二段ハット(強化段ボール材) 同材料ロッキングチェア(強化段ボール材)	神田産業株式会社

NUBIC(日本大学産官学連携知財センター) 郡山サテライトの開設

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学の連携により、郡山地域における知的財産・産学連携活動を活性化し、日本大学及び企業間の共同研究、技術移転等を通じて地域産業の発展・推進に寄与するため、「郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター」内にNUBIC郡山サテライトを平成19年7月から開設し、地域企業の皆様の技術開発等に係る相談に応じています。



NUBIC郡山サテライトの技術相談

年度	相談件数
平成20年度	13
平成21年度	19
平成22年度	15
平成23年度	18
平成24年度	21
平成25年度	15

研究開発・事業化コーディネート事業

また、平成20年度から、当財団とNUBICのコーディネーターが直接企業を訪問しシーズを紹介する「出前セミナー in 企業」も開催しています



出前セミナー in 企業

年度	相談件数
平成20年度	3
平成21年度	4
平成22年度	3
平成23年度	2
平成24年度	3
平成25年度	2

- 主な相談内容**
- 日本大学に属する研究者、研究シーズ、知的財産等の紹介、共同研究、技術指導等の斡旋
 - 知的財産制度、その運用等に関する情報提供
 - 研究開発支援制度、産学連携支援制度等の紹介 など

※開設日時：毎月第4水曜日、午前10時から午後4時まで。事前申し込みが必要です。
※開設場所及び申込先：郡山地域テクノポリスものづくりインキュベーションセンター
※「出前セミナー in 企業」を希望される企業については、開催日時等について調整が必要となりますので、事前に上記申込先へご相談ください。

☆郡山地域をはじめ県内の中小企業・個人等が対象です。 ☆相談は無料です。

平成25年度の主な動き

入居者審査委員会の開催状況

1

新規
入居者
審査

第1回 平成26年2月20日(木)

- 3件の申込みがあり、審査の結果、2企業が入居。

支援室No.2 エコポンド環境工学リサーチ(株)(平成26年3月14日入居)

支援室No.4 (株)あおい(平成26年4月1日入居)

2

入居者
延長審査

第1回 平成25年8月8日(木)

- エコポンド環境工学リサーチ(株)
- (一社)脳と心の健康科学研究所(平成26年3月末卒業)
- PSP(株)

6企業の延長決定

第2回 平成26年2月20日(木)

- (株)ニチオン
- (株)テレジャパン
- (株)メディファム
- オクト産業(株)
- オバナヤ・セメントックス(株)
- EDR-K

3企業の延長決定

入居企業紹介

新事業創出育成事業

入居企業名	業種等	本社	入居日	主な研究開発要件	会社PR
エコポンド環境工学リサーチ株式会社	除染技術の高度化	広島県庄原市	平成24年9月3日 平成26年3月14日	「イーコン・ポリイオン工法」による水処理技術の開発と高度化事業	除染技術の高度化に取り組み、新しい開発技術を持って更に貢献したい
福島再生可能エネルギー株式会社	再生可能エネルギープラント設計・製造を中心とした環境エネルギー事業	須賀川市	平成26年5月21日	①小水力発電設備の研究開発並びに発電事業 ②太陽光発電事業 ③地域未利用バイオマスを利用した半炭化の研究開発、半炭化装置の製造販売	再生可能エネルギー関連事業の研究開発
株式会社あおい	総合建設業	須賀川市	平成26年4月1日	土木分野における資材・機械・管理システム等の開発	融雪効果のあるアスファルト開発
PSP株式会社	臨床医療用ソフトウェアの研究開発・販売	東京都港区	平成24年9月3日	「遠隔画像診断支援コンピューターシステム」の開発	臨床医療用ソフトウェアの研究開発・販売
株式会社ニチオン	医療機器製造・販売	千葉県船橋市	平成23年8月22日	①身体に優しい手術器具の開発 ②新しい洗浄機の開発	社会的効用をもたらす最先端医療機器・革新的設備機器等の研究開発
オクト産業株式会社	工業デザイン・製品企画・設計	東京都板橋区	平成24年3月1日	電磁誘導発電による自立給電システムの開発	産学官連携による電磁誘導および自然エネルギーを利用した発電と、高効率充電方法の開発
株式会社テレジャパン	放射線量計企画・販売・設置	郡山市	平成24年9月10日	家庭向け簡易食品放射線測定装置の開発	家庭でも測定できる簡易食品放射線測定器を開発
オバナヤ・セメントックス株式会社	石粉、砕石の製造・販売	愛知県名古屋	平成25年3月18日	鉄筋コンクリート構造物用補修材料・工法の企画・開発・販売準備	塩素固定化材を配合したポリマーセメント系鉄筋防錆材を開発実用化
EDR-K	高周波及びセンサー関連他 開発委託	郡山市	平成25年1月10日	モバイル端末用途の球状ANT開発	独創的なアイデア製品を主製品として、契約会社との開発委託事業を展開
株式会社メディファム	動物用医薬品の製造販売	郡山市	平成24年5月7日	動物用医薬品及び動物用サプリメントの開発・製造	畜産現場において生産性の向上または、差別化により輸入製品に対抗しうるための製品開発

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会 活動報告

(IT高度利用推進事業、情報化人材育成・研究事業、産学連携IT人材育成事業)

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会は、(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と連携し、「IT」をキーワードに圏域企業や個人等を対象に会員を募り、情報交換や情報収集の場を設け、相互研鑽や連携を深めるとともに、圏域のICT化社会への対応を支援するための事業に取り組んでいます。

平成25年度は以下の事業を実施しました。

1 ワークショップ マルチデバイスのためのコンテンツ戦略 <IT高度利用推進事業>

前年度開催した、マルチデバイス化を見据えたコンテンツ設計・3部作の2回目。Webサイト利用者のニーズ、ビジネスゴールの両方を満たすための「コンテンツ戦略」について、ディレクターなどWeb制作の全体工程に関わる人はもちろん、エンジニア、デザイナー、サイトを運営する企業側にとっても欠かせない知識を学ぶセミナーを開催しました。



開催日	平成25年5月18日(土) 13:30~16:30
会場	ビッグパレットふくしま プレゼンテーションルーム
参加者	18名

講師 長谷川 恭久氏

2 セミナー Webクリエイターに足りない、本当のSEOスキル <IT高度利用推進事業>

岡山で開催され全国的に反響を巻き起こしたセミナーをアップデートして、東北では初開催。SEO(検索エンジン最適化)の第一人者・住氏による、クライアントが求めるビジネスゴールを実現するためにSEOを通じてWeb制作者がすべきこと、小手先のテクニクに頼らない「本当の」SEOスキルとはなにかを学ぶセミナーを開催しました。



開催日	平成25年6月8日(土) 13:30~16:30
会場	郡山市民交流プラザ 大会議室1
参加者	28名

講師 住 太陽氏

協賛 Ginzamarkets株式会社/株式会社サーティファイ

3 セミナー “なぜこの店ではテレビが2倍の値段で売れるのか?” 「でんかのヤマグチ」社長が明かす、顧客サービスの極意 <情報化人材育成事業>

大手家電量販店がひしめく家電安売りの激戦地・町田で、安売りに背を向け徹底した「高売り」を貫く「でんかのヤマグチ」。15期連続で黒字、粗利益率は39.8%。なぜ「高売り」ができるのでしょうか。その秘密は徹底した顧客対応にあります。そこで、自社の付加価値を高める顧客サービスの極意と、中小企業が生き残るための経営方針を学ぶセミナーを開催しました。



開催日	平成25年7月4日(木) 14:00~16:00
会場	ビッグパレットふくしま 中会議室B
参加者	40名

講師 株式会社ヤマグチ
代表取締役 山口 勉氏

後援 郡山商工会議所/賀賀川商工会議所

4 ワークショップ コンテンツを活かすためのUI設計 <IT高度利用推進事業>

マルチデバイス化を見据えたコンテンツ設計・3部作の完結編となる3回目。切っても切り離せない関係にある、コンテンツとUI(ユーザーインターフェース)デザイン。UIのひとつひとつに注目し、マルチデバイス上でコンテンツを引き立てるためのノウハウ、サイト設計を学ぶセミナーを開催しました。



開催日	平成25年7月20日(土) 13:30~17:00
会場	郡山地域テクノポリス ものづくりイノベーションセンター 会議室
参加者	14名

講師 長谷川 恭久氏

5 セミナー 手戻りや予算減を防ぐ、コミュニケーション・テクニク <IT高度利用推進事業>

Web制作やシステム開発などのプロジェクトにおいて、クライアントとのコミュニケーションをより円滑に効率よくできれば、信頼関係が築け、提供するサービスの品質もモチベーションも向上し、お互いにより良い仕事ができます。そこで、クライアントや担当者とのコミュニケーションをはかるときのポイントやコツを学ぶセミナーを開催しました。



開催日	平成25年9月7日(土) 14:00~16:30
会場	郡山市民交流プラザ 第1会議室
参加者	14名

講師 インターネットストラテジー
代表 角掛 健志氏

モデレーター RIALAB. 白府 誠氏
株式会社Gazi工房 赤井 菜津美氏

6 セミナー LINE@ビジネスセミナー ～できるお店のLINE活用術～〈協力〉

LINE@は、国内4,500万人以上が利用している「LINE」を使ったWebマーケティングツールで、店舗や団体を紹介する法人アカウントを作り、地域の方々に広くPRすることができます。

LINE本社の担当者から、LINE@を活用した新規顧客の獲得・効率よい販売促進のしかた・リピーター囲い込みの手段などについて学ぶセミナーの開催に協力しました。

開催日	平成25年11月15日(金) 14:00～15:00
会場	郡山総合体育館
参加者	92名
講師	LINE株式会社 サービス企画2室 サービス企画4チーム 西尾 勇氣 氏
主催	郡山商工会議所

7 セミナー Webサイト、メルマガ、ブログ、パンフレット…「伝わるコンテンツの編集&ライティングレシビ」〈情報化人材育成事業〉(延期)

SEO(検索エンジン最適化)やマーケティングの観点からだけでなく、Webサイトの利用者や顧客にとって、コンテンツそのものの重要性は言うまでもありません。そこで、文才やセンスに頼らず、誰でも「設計思考」に基づいて文章を書けるようになるための理論を学ぶセミナーを開催。

※2月15日(土)に開催予定でしたが、当日大雪のため延期しました。

開催日	平成26年4月12日(土) 13:30～17:00
会場	郡山地域テクノポリス ものづくりインキュベーションセンター 会議室
講師	株式会社Rockaku 代表取締役 森田 哲生 氏

8 セミナー データシティ鯖江市から学ぶ『オープンデータ』導入・活用事例について〈協力〉

オープンデータとは、行政が保有する統計情報や防災・減災情報などの公共データを指し、その活用が、経済活動・情報流通の活性化につながると注目されています。

今回、先進的にオープンデータを活かす取り組みを行っているデータシティ「鯖江市」から、郡山のさらなる活性化を目指し、導入・活用事例を学びました。

開催日	平成26年2月17日(月) 15:30～17:00
会場	郡山ビューホテルアネックス 3F「麓山」
参加者	47名
講師	鯖江市政策経営部情報総括監 牧田 泰一 氏
主催	郡山高度情報化システム研究会

9 セミナー・ワークショップ〈産学連携IT人材育成事業〉**スマートフォン・インターネット安全教室**

スマートフォンやソーシャルネットワーク(SNS)の普及により、子供たちの周辺環境にはさまざまなツールが存在しており、それに伴い、不正プログラムや有害サイト、インターネット上のコミュニケーショントラブルなどに巻き込まれる被害も増加しています。そこで、子供たちが安全にインターネット等を利用できる環境づくりを支援するため、親子参加の安全教室を実施しました。

**第1回 わくわく! プログラミングワークショップ
ワークショップ指導者向けセミナー**

近年、子供に向けたプログラミング教育への関心が非常に高まっています。論理的な思考やものづくりの喜びを体験してもらい、圏域における将来のIT人材を育成するため、小学4～6年生を対象にプログラミングワークショップを開催しました。

ワークショップでは、ビジュアルプログラミング言語「Scratch(スクラッチ)」と、名刺サイズのコンピューター「Raspberry Pi(ラズベリーパイ)」を使用しました。

同時に、地域で同様のワークショップが開催できる指導者を育成するため、指導者向けセミナーも開催しました。

開催日	平成26年3月8日(土) スマートフォン・インターネット安全教室 11:00～12:00 ワークショップ指導者向けセミナー 10:00～12:00 わくわく! プログラミングワークショップ 13:00～15:00
会場	日本大学工学部 情報研究棟 第一・第二演習室
参加者	スマートフォン・インターネット安全教室: 親子25組50名 わくわく! プログラミングワークショップ: 親子25組50名 指導者向けセミナー: 16名
講師	<スマートフォン・インターネット安全教室> 株式会社ジャストシステム <プログラミングワークショップ・指導者向けセミナー> NPO法人CANVAS / 青山学院大学非常勤講師 / 津田塾大学非常勤講師 阿部 和広 氏
共催	NPO法人CANVAS

**10 セミナー・ワークショップ 第2回 わくわく! プログラミングワークショップ**〈産学連携IT人材育成事業〉

第1回で行ったのと同内容で、地元講師による2回目のワークショップを開催しました。また、前回の指導者向けセミナーの参加者の方々に、ワークショップのファシリテーターとして参加いただきました。



開催日	平成26年3月15日(土)
会場	国際アート&デザイン専門学校
参加者	親子6組12名
講師	株式会社マックス 代表 国際アート&デザイン専門学校 非常勤講師 佐藤 充 氏
協力	NPO法人CANVAS

ホームページ、Facebookページで最新情報をお知らせしています

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構・郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会のホームページやFacebookページで、Web・IT・ビジネス系ニュースや、当財団・協議会主催のセミナー・イベント、また近郊で行われるセミナー等、みなさまのお役に立つ情報をタイムリーにお知らせしています。

<ホームページ> <http://www.techno-media.net6.or.jp/>

<Facebookページ> <https://www.facebook.com/technoandnmc>

アドホック研究会

研究会活動報告

会員相互の技術、情報などの交流と幅広い研究を通して、新技術、新商品、新事業の開発と新市場の開拓を促進するとともに、生産・販売面での相互協力を促進し、会員企業の成長発展と地域産業の振興に貢献することを目的に活動しています。会員は郡山地域テクノポリス圏域内(郡山市、須賀川市、三春町、鏡石町、玉川村、石川町)などの企業経営者・役員です。

アドホック研究会(郡山)

会員数 14名

会長 坂口 進(㈱坂口伝導工機代表取締役社長)

平成25年度 事業内容

4月定期総会

5月例会 平成25年度事業計画(月別テーマ)の検討

6月例会 7月以降の例会テーマの検討、情報交換会

7月例会 演題:「震災復興に向けた

福島県経済の現状と課題について」

講師: (一社)とうほう地域総合研究所

研究員 和田 賢一氏

8月例会 演題:「次々と成功事例を生み出す新製品開発の秘訣」

講師: 東北大学大学院工学研究科

教授 堀切川 一男氏

会員企業訪問:日ノ出工機(株)、㈱北斗型枠製作所

9月例会 情報交換会:「フィリピンにおける事業展開等について」

實石 忠男氏(海外視察研修の視察先企業代表者)

会員企業訪問:日ノ出工機(株)

10月例会 「再生可能エネルギー・環境共生推進協議会」

視察研修への参加

視察先:東北大学農学部川渡フィールドセンター

11月例会 海外視察研修(フィリピン:11月14日~18日)

- ・月電Philippines Electronics Inc
- ・Jitsuishi Group of Companies フィリピン工場
- ・ジェットロマニラ事務所

※須賀川方部アドホック研究会との合同実施

12月例会 企業視察:神田産業(株)新工場見学

(須賀川方部会員企業)

1月例会 「テクノポリス新春講演会」への参加、情報交換会

2月例会 郡山市ものづくりマッチング交流会への参加

3月例会 次年度事業計画等の検討、情報交換会



8月例会 講演
(東北大 堀切川教授)

7月例会 講演
(一社)とうほう地域総合研究所
和田研究員)



須賀川方部アドホック研究会

会員数 18名

会長 水上哲夫(㈱ぱすわーど 代表取締役)

平成25年度 事業内容

4月定期総会

5月例会 平成25年度事業計画(月別テーマ)の検討

6月例会 勉強会

テーマ:「3Dプリンタについて」

講師:㈱ぱすわーど 代表取締役 水上 哲夫氏

7月例会 勉強会

テーマ:「介護食、流動食、非常食等の試食会」

講師:紅食(株) 代表取締役 栗原 敏郎氏

8月例会 企業視察:福島岩通(株)

須賀川工場 結棟(須賀川市前田川)

9月例会 国内視察研修:燕市産業視察(新潟県燕市)

産業史料館、磨き屋一番館、玉川堂

EVhonda(株)(新潟県長岡市)

10月例会 企業視察:奥地建産(株) 福島工場(須賀川市虹の台)

11月例会 海外視察研修(フィリピン)

- ・月電Philippines Electronics Inc
 - ・Jitsuishi Group of Companies フィリピン工場
 - ・ジェットロマニラ事務所
- ※アドホック研究会(郡山)と合同開催

12月例会 企業視察:神田産業(株)新工場見学

1月例会 海外視察研修報告会

2月例会 研修会

テーマ:「3Dプリンタの原理と今後の可能性」

講師:日本大学工学部 情報工学科

准教授 小林 義和氏

3Dプリンタ製作稼働状況見学会(日大研究室)

3月例会 「盛和塾」市民公開フォーラム

稲盛和夫氏講演会収録DVD聴講会



6月例会 勉強会



9月例会 国内視察研修
(EVhonda(株)にて)



12月例会 企業視察
(神田産業(株)新工場にて)



2月例会 3Dプリンタ研修会
(小林准教授より)

平成25年度 各研究会活動状況報告

研究会活動報告

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、産学官連携による研究開発体制の構築を目的に各種研究会活動を支援するとともに、大学等との連携により、技術シーズの紹介・提案、企業ニーズの大学等での検証、シーズとニーズのマッチングによる具体的な産学共同研究開発案件の掘り起こしなどを行っています。現在、分野別に「再生可能エネルギー・環境共生推進研究会」・「医療・福祉機器等関連新事業創出研究会」・「機能性材料・製造プロセス研究会」の3つの研究会が活動しています。

以下、これら研究会の活動状況を紹介します。

再生可能
エネルギー・
環境共生
推進研究会

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部との共同で主催する研究会です。同大学の環境保全・共生共同研究センターと連携しています。再生可能エネルギーや環境をテーマとした研究シーズを地域の産業界と融合させ新事業創出による地域力を高めることを目的としています。主な研究テーマは「大気、水質、土壌などの自然環境の保全・修復」、「省エネルギーやグリーンエネルギー」、「廃棄物の処理・リサイクルや未利用資源の活用」、「環境に関する影響評価・分析」、「環境関連装置・環境に調和した製品の開発」などです。



平成25年度 第1回 再生可能エネルギー・環境共生推進研究会

期日:平成25年7月11日(木) 場所:日本大学工学部50周年記念館3階大講堂 参加:120名

コーディネーター

日本大学工学部土木工学科 教授 長林 久夫 氏

テーマ
①地域特性を生かした地中熱利用技術による
エネルギー自立への挑戦

日本大学工学部機械工学科 教授 柿崎 隆夫 氏

テーマ
②～第四の波～ 地域分散型の再生可能エネルギー
を活用した地域エネルギー会社の創発に向けて

福島ミドリ安全株式会社 代表取締役社長 白石 昇央 氏

テーマ
③グリーンインフラの導入による水循環の
適正化と持続可能な地域づくり

日本大学工学部土木工学科 准教授 中野 和典 氏

『再生可能エネルギー・環境共生推進から見た今後の地域づくり』をメインテーマに、日本大学工学部と産業界から再生可能エネルギー技術、住環境共生と水循環システム及びイノベーションや環境戦略などに係る取り組みを紹介し、震災からの復旧・復興と今後の地域づくりに向けた方向性について意見を交わしました。



研究会の様子



研究会の様子



再生可能エネルギー・環境共生推進研究会プレスト懇談会

期日:平成25年10月8日(火)
場所:日本大学工学部環境保全・共生共同研究センター 参加:9名

第1回研究会参加者と各講師による、研究開発等に向けた詳しい話し合い(プレスト)による懇談会を行いました。

プレスト懇談会の様子



平成25年度 第2回 再生可能エネルギー・環境共生推進研究会 視察研修会

期日:平成25年10月11日(金)
場所:東北大学大学院農学研究科附属 川渡フィールドセンター内人工湿地施設(宮城県大崎市)
参加:15名

『水循環システムと地域づくりへの応用』をテーマに、自然の浄化機能を活用した排水処理の施設である人工湿地施設を訪問し、視察研修を行いました。

5つに分かれた総面積111㎡の人工湿地を通過することにより、ヒト70人分の汚水が自然に浄化されることを3年間の実証実験を行った施設です。エネルギーに依存しない自然の浄化機能を上手に利用した汚水処理施設に、参加者された皆さんは興味深く関心を寄せていました。

視察研修会

第2回研究会
(視察研修会)

医療・福祉 機器等 関連新事業 創出研究会

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部との共同で主催する研究会です。今後市場規模が拡大すると考えられる、医療福祉機器分野における新事業創出を目的としています。主な研究テーマは「医療や福祉の現場ニーズに関する懇談会」「医学・工学・産業界連携フォーラム」「先進企業の事例発表」「先進地および先進企業の視察」などです。

第1回 韓国原州御一行ハイテクプラザ見学



平成25年度 第1回医療・福祉機器等関連新事業創出研究会

日時:平成25年7月25日(木) 場所:ビッグパレットふくしま 3階 小会議室2~3 参加:約60名

今回の研究会のテーマは、「医療機器ものづくり精神と韓国医療機器産業の動向」と題して、薬事法の動向に詳しい合同会社コンピエーレ 代表 医学博士 麻坂 美智子氏と韓国 江原道 原州より医療機器産業関係者をお迎えしてセミナーを開催しました。

①「韓国 医療機器産業クラスターとの

医療機器開発相互技術協力協定とその事業推進」

講師:(公財)郡山地域テクノポリス推進機構
常務理事 熊田 正治 氏

②「韓国の医療機器産業の動向と日韓共同医療機器開発プロジェクトの推進」

講師:(財)原州医療機器テクノバレー
企業支援本部長 咸 基榮 氏

③「開発に挑戦する医療機器と日本よりの協力 -その1-」

講師:Hyun Medics
社長 徐 玄培 氏

④「開発に挑戦する医療機器と日本よりの協力 -その2-」

講師:SEAWON Industrial Co., Ltd.
専務取締役 李 丙皎 氏



韓国咸本部長の講演風景



講演会風景



会場風景

セミナー
1

セミナー
2

「医療機器モノづくり精神と薬事法」

講師:合同会社 コンピエーレ
代表 麻坂 美智子 氏



平成25年度 第2回医療・福祉機器等関連新事業創出研究会

日時:平成25年12月18日(水) 場所:ビッグパレットふくしま 3階 中会議室A 参加:約50名

今回の研究会では、平成25年6月に発足した、「一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構」の菊地理事長をお迎えし、「福島県内の中小企業が取り組むべき医療機器と、現在計画中の福島県医療機器開発・安全性評価センター(仮称)の概要」というテーマでご講演いただきました。

講演では、医療機器産業の最新情勢、今後が期待される医療機器産業、国内・外の薬事規制動向、企業活動への示唆及び「ふくしま医療機器産業推進機構」等についてわかり易くご紹介いただき、参加者にとって大変有意義な研究会となりました。

①「中小企業が取り組むべき医療機器と福島県医療機器開発・安全性評価センター(仮称)が目指すもの」

講師:一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構 理事長 菊地 眞 氏

講演



講演会風景



講演会風景



菊地理事長の講演風景

機能性材料・ 製造プロセス 研究会

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構と日本大学工学部との共同で主催する研究会です。「新しい材料や製造技術」、「現行の材料や製造技術の改善」などをテーマとし、地域の材料系企業への技術情報の発信や各種技術交流会等の開催、本年度は再生可能エネルギー(地中熱等)に関する講演会等を実施。



平成25年度 機能性材料・製造プロセス研究会

日時:平成25年9月13日(金) 場所:ビッグパレットふくしま 3階「中会議室A」 参加:60名

コーディネーター 日本大学工学部生命応用化学科

教授 西出 利一 氏

コーディネーター挨拶



① 地熱エネルギー利用のススメ

(独)産業技術総合研究所
地圏環境評価研究グループ
グループ長 安川 香澄 氏



安川講師の講演風景

地熱発電の特徴やそのしくみ、技術的課題、さらに、将来の地熱エネルギーとして期待されているEGS(地熱増産システム)を紹介。また、熱エネルギーを直接温熱として使う地熱直接利用や地熱資源を観光資源として用いるエコツアーを紹介。

② 使おう! 地中熱エネルギー

(独)産業技術総合研究所
地下水研究グループ
主任研究員 内田 洋平 氏



内田講師の講演風景

地中熱システムの原理、エネルギー対策としての意義、地下水と地下温度構造との関係、(独)産業技術総合研究所での地中熱研究の取り組み、福島県における地域振興策としての可能性について紹介。

コラム COLUMN IMから

白熱教室

先日「ソウル白熱教室」と言うテレビ番組を見ました。ソウル大学 生活科学学部のカム ナンド教授の韓国での一般講演会です。

現在 私たちは、韓国 江原道 原州市を中心として集積する、「原州医療機器産業クラスター」との産業交流事業の推進で、よく原州/春川とソウル市を往復しますが、ソウル大学は韓国随一のエリート校。熾烈極まる競争を勝ち抜いた秀才3万2千人が、16の学部と9分野の大学院、80に及ぶ研究所で学んでいます。

この大学で、学生による投票で「ソウル最優秀講義」に選ばれたのが、生活科学学部のカム ナンド教授です。2010年 カム教授が書いたエッセイ「つらいから青春だ」は、韓国で180万部を超えるベストセラーを記録している。世界でも有数の競争社会の渦に吞まれ、生きづらさを抱える若者たちに向けたこのエッセイは、若者たちの心に強く訴えた。韓国の大学進学率は72.5%(2011年)で、日本の50.8%を大きく上回る。1997年の通貨危機の後、韓国の人々の間では一握りのエリートを目指す動きが広がり、有名大学への進学熱はすさまじいものになった。2008年の金融危機後、格差が急速に広がる中で、競争はさらに激化、親は子の受験準備に収入の半分以上をつぎ込むという事態が起こった。大学入試を勝ち抜いた者には、今度は就職のための競争が待っている。今の韓国では大卒者の5割程度しか就職できないという。一昨年の大統領選挙でも、格差の是正と就職難の解消は中心的テーマだった。

この白熱教室では、聴講者たちが、就職の悩み、女性の悩み、子育ての悩みを教授に次々にぶつかけると、教授が明解に答えていきます。見ていて、韓国人も日本人と悩みは一緒だなと感じた。客席から就職の悩みについて上がった時、教授が出したのがこれ。「居昌高校職業選択の十カ条」です。居昌高校はキリスト教系の私立高校。韓国の多くの高校が大学予備校と化している中で、畑仕事など生活実践的な教育をする高校として有名です。その校訓として掲げられているのが「職業選択の十戒」です。どんな内容か?

1. 給料が少ないほうを選べ。
2. 自分が望むところではなく、自分が必要とされているところを選べ。
3. 昇進のチャンスがほとんどないところを選べ。
4. すべて条件がそろっているところは避けて、イチからはじめねばならない荒地を選べ。
5. 先を争って人が集まるところには絶対に行くな。だれもいかにそこに行け。
6. 将来がまったくないとおもわれるところに行け。
7. 社会的な尊敬が期待できないところに行け。
8. まんなかでなく、はじに行け。
9. 両親や配偶者、婚約者が命がけて反対するところならまちがいなし。
10. 王冠ではなく、断頭台が待つところに行け。

「十戒」とあるので、キリスト教の犠牲の精神を表しているのかもしれませんが、私は面白いと思いました。

韓国も日本もそうですが、社会的地位が高いとか、給料が高いとか、そういう職業をみんな目指します。しかしみんなが同じ場所を目指したら、社会は成り立たなくなってしまいます。みんなが目指さない場所で一生懸命努力すれば、オンリーワンになるのは、それほど難しくないので、それに人の評価なんて移ろいやすいものですから…。

カム ナンド教授も「今の社会では、専門性が求められている。学歴や地位が高い人間よりも、実績や専門性を持っている人間が選ばれるのだ。」と言っていました。また、行き過ぎた資本主義ではなく、「温かい資本主義」を目指すべきだとも言っています。



講義に向かう学生達



ソウル大学キャンパス正門

平成26年度 各種助成事業募集のお知らせ

研究開発・事業化コーディネート事業

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構では、テクノポリス圏域内企業や企業グループ(産学連携を含む)等の研究開発や起業化の取組みを支援するため、各種助成事業を設けています。

1 F/S支援事業

研究開発や新事業創出等の成功率を上げるために、開発に着手する前段のフィージビリティスタディ(実現可能性・起業化可能性の調査検討=F/S)を行う場合に経費の一部(助成対象経費の2/3以内で100万円を限度)を助成します。

2 研究開発助成事業

新技術または新製品の開発、生産工程の合理化または製品の高付加価値化、これらに類する技術の高度化に関する研究開発を行う企業、共同研究グループに対して、研究開発に要する経費の一部(助成対象経費の2/3以内で300万円を限度)を助成します。

3 地域技術起業化助成事業

技術革新の進展に即応した技術を製品化・商品化するため、その事業に向けて必要な商品開発、情報収集、市場開拓等の事業を行う企業や共同研究グループに対して起業化に要する経費の一部(助成対象経費の2/3以内で500万円を限度)を助成します。

4 債務保証事業

新技術、新製品などの研究開発を行うため、優秀な技術力、製品開発力がありながら資金調達力不足などの理由で、研究開発が促進できない企業のために、研究開発に要する資金の金融機関からの借入に際し、無担保で2,000万円まで債務を保証します。

5 新技術・新製品市場開拓支援事業

新技術、新製品の新規市場開拓や販路拡大につなげることを目的に行う、海外の産業見本市等への出展に要する経費の一部(助成対象経費の2/3以内で50万円を限度)を助成します。

平成25年度 助成対象企業 (平成25年度の助成事業対象企業は以下のとおりです)

F/S
支援事業

株式会社メディファム

(郡山市・インキュベーションセンター入居企業)

F/Sテーマ メカブを原料としたヒト用サプリメント開発のための調査及び分析

事業内容: 日常的な摂取が可能なメカブの錠剤化

- ① 多糖類を含むメカブの乾燥技術の確立
- ② 内容成分の分析
- ③ ヒト用サプリメント(錠剤製品)の推奨量(1日摂取量)と有効性の確認
- ④ 製品の包装形態、価格、ネーミング、販売ルートの調査検討

事業実施期間: 平成26年2月から1年間



(独)産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所開所報告

(独)産業技術総合研究所は、平成26年4月1日、世界最先端の再生可能エネルギー研究開発拠点となる「福島再生可能エネルギー研究所」を郡山市の西部第二工業団地内に開所しました。

同研究所は、「世界に開かれた再生可能エネルギーの研究開発の推進」と「新しい産業の集積を通じた福島復興への貢献」の使命のもと、再生可能エネルギーに関する新技術を生み出し、国内外への情報発信拠点となります。

研究テーマは、

- ①再生可能エネルギーネットワーク開発・実証
- ②水素キャリア製造・利用技術
- ③高効率風車及びアセスメント技術
- ④薄型結晶シリコン太陽電池モジュール技術
- ⑤地熱発電の適正利用のための技術
- ⑥地中熱ポテンシャル評価とシステム最適化技術の開発



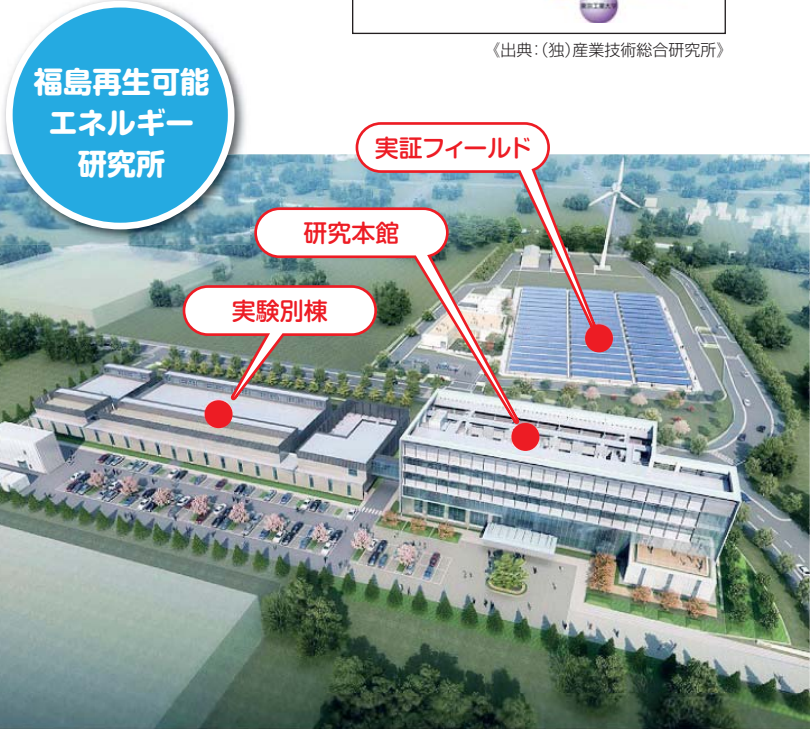
〈出典：(独)産業技術総合研究所〉

の6項目で、世界最先端の研究が、郡山で実施されます。

同研究所では、世界トップレベルの研究成果をもとに、「被災地企業への支援プログラム」や「企業との共同研究」を実施することで、産業界との連携を深め、新しい産業の集積を目指します。

また、同研究所が、福島県内の福島大学、会津大学、いわき明星大学、日本大学工学部、東北大学と連携することで、世界レベルの人材育成が期待されます。

当財団としても、同研究所と積極的な連携を図り、郡山地域の企業が世界で勝ち抜く研究開発並びに事業化拠点の形成を目指してまいります。



〈出典：(独)産業技術総合研究所〉

サイエンスツアー in こおりやま2014 ～くらしの工学を学ぼう～

東日本大震災から3年が経過し、震災からの復興を図るべく、郡山地域には平成26年4月に(独)産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所が開所され、平成27年度には福島県環境創造センターの一部施設が供用開始され、平成28年度には福島県医療機器開発・安全性評価センター(仮称)が開所されるなど先進的研究・学術研究機関の集積が急速に進んで、おります。

また、郡山地域には、以前から、日本大学工学部等を始めとする高等教育機関や、福島県の工業振興を図る公設試験研究機関である福島県ハイテックプラザのほか、明治政府により整備され、現在の郡山地域(安積開拓)の基礎を築き日本の三大疎水の一つである安積疎水など、郡山地域の近代化を今に伝える産業遺産も数多く点在しております。

当財団では、これらの集積を貴重な地域資源と捉え、郡山地域の魅力向上に活用するとともに、関係機関や大型観光キャンペーン「ふくしま destinations キャンペーン」とも連携し、郡山地域の産業観光振興に寄与する『サイエンスツアー』を本年度、実施します。

ふくしま復興・再生可能エネルギー産業フェア2013

REIFふくしま2013

開催日 平成25年11月6日(水)7日(木)
場所 ビッグパレットふくしま
来場者 約5,600名

主催 福島県、公益財団法人福島県産業振興センター
共催 復興庁、外務省、文部科学省、農林水産省 等



このフェアは、原子力に依存しない安全・安心な社会を創るため福島県を再生可能エネルギーの先進地とすることを目的に、新たな産業の創出、関連産業の集積・育成や、関連産業でビジネスに取り組まれる企業・団体の皆様に技術・情報の収集、商談・交流の場を提供するものとして開催されました。当(公財)郡山地域テクノポリス推進機構も展示ブースを設け、当機構の事業等について来場者に紹介しました。

イベント内容

再生可能エネルギー技術セミナー

再生可能エネルギーの飛躍的推進に向けて

～ふくしまからはじまる地域イノベーション～

・地球イノベーション戦略支援プログラムの概要

福島県産業振興センター
 プロジェクトディレクター 服部 靖弘氏

・イノベーション創出に向けたふくしまの新たな挑戦

(パネルディスカッション)

福島大学副学長 小沢 喜仁氏
 東洋システム(株)代表取締役 庄司 秀樹氏

日本大学工学部教授 柿崎 隆夫氏
 (独)産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所

所長代理 近藤 道雄氏
 福島県商工労働部

再生可能エネルギー産業推進監兼次長 吉田 孝氏

経営者・技術者向け講習会

・世界のエネルギー地政学の変化と日本の道路

(一財)日本総合研究所理事長 寺島 実郎氏

海外応用技術セミナー

・太陽光発電技術における近年の潮流

ドイツ フラウンホーファーISE(太陽エネルギーシステム研究所)
 ローランド・シンドラー 教授

再生可能エネルギー導入促進セミナー

再生可能エネルギー先駆けの地 福島県の差別化戦略

・再生可能エネルギー先駆けの地を目指して

福島県知事 佐藤 雄平

・日本の再エネ状況、再エネによる地域活性

東京財団研究員、政策プロデューサー 平沼 光氏

・再生可能エネルギー先駆けの地 福島の差別化戦略

(パネルディスカッション)

東京財団研究員、政策プロデューサー 平沼 光氏
 (一社)福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会

代表理事 半谷 栄寿氏
 (農)浜通りの農産物供給センター 中井 信也氏

国際経済交流セミナー「第1部」

・ドイツNRW州発の未来エネルギー

～全独1/3のエネルギーを供給・消費するエネルギー州～

EnergieAgentur.NRW(ドイツNRW州エネルギーエージェンシー)
 ヒートポンプ振興部長 スヴェン・ケアステン氏

・日本企業のビジネスチャンス

～ドイツNRW州を起点に欧州市場を開拓～

～NRW.INVESTの市場参入サポート～
 NRWジャパン 代表取締役社長 ゲオルグ・K・ロエル氏

(独)産業技術総合研究所普及啓発セミナー

・再エネ大量導入の加速を目指す

“福島再生可能エネルギー研究所”

(独)産業技術総合研究所
 福島再生可能エネルギー研究所長 大和田野 芳郎氏

・技術課題の相談役、新たな技術開発に向けて

(独)産業技術総合研究所 東北センター
 イノベーションコーディネータ 南條 弘氏

浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業普及啓発セミナー

・世界初の浮体式洋上ウインドファームの建設と将来展望

東京大学大学院 工学系研究科
 社会基盤学専攻教授 石原 孟氏

国際経済交流セミナー「第2部」

・カナダの再生可能エネルギー産業について

カナダ大使館 投資・資源エネルギー部
 参事官 ステファン・ボリュエ氏

・ノルウェーパワード・バイ・ネイチャーノルウェーの

PV企業による日本市場への貢献

ノルウェー王国大使館 通商技術部

参事官 スベイン・グランダム氏

・EUにおける再生可能エネルギーの現状と

ベルギー・フランダースの取組み

ベルギー・フランダース政府貿易投資局(FIT)

日本事務所代表 デルク・デルレイベル氏

出展者交流会/取引商談会



開会式テープカット

メディカルクリエーションふくしま2013

こおりやま全市元気応援産業フェア2013～夢商い～

開催日 平成25年10月30日(水)・31日(木)

場所 ビッグパレットふくしま

参加人員 約3,400名

主催 メディカルクリエーションふくしま2013実行委員会 【構成団体】一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構/福島県/(公財)福島県産業振興センター/(公財)郡山地域テクノポリス推進機構/(社)福島県菓子工業協会/福島県医療機器販売業協会/福島県医療福祉機器研究会/(一社)福島県臨床工学技士会/(公大)福島県立医科大学/(株)東邦銀行

この展示会は、ものづくり企業、大学等研究機関、医療機器関連メーカーの商談・技術交流の場として平成17年より開催されているもので、今回は、「ふくしまで見つかる」医療機器進化の発想と新しいモノづくり」をテーマに、県内87企業・団体を含む221企業・団体が出展し、過去最大規模の展示会となりました。

当財団では、かねてから産業交流を推進している韓国江原道原州市の「原州医療機器テクノバレー」と「原州医療機器産業クラスター企業」のブースを設け、日韓の技術交流を図りました。

また、イベントとして薬事法セミナーや海外企業・団体による最新技術セミナーが開催されたほか、出展作品については「メディカルクリエーション大賞」ほかを設け、優秀作品が表彰されました。

なお、韓国医療セミナーとして、Synex Consulting 株式会社 代表理事 金 玲氏が講演し、日韓共同開発促進のため、本開催を盛り上げました。

開会式
テープカット

セミナー内容

最新技術セミナー

「福島県医療機器開発・安全性評価センター(仮称)の現状報告及び医療機器関連メーカーが期待すること」

【ドイツ・韓国】海外展開セミナー

ドイツにおける市場参入のための成功例
 韓国における医療機器関連産業の現状と日本企業に求めること

医療機器規制の壁を乗り越えるためには

～対話形式による解説と事例紹介～
 医療用ロボットに関する医療現場のニーズとモノづくり企業に期待すること

新規参入に向けたパネルディスカッション
 出展企業による自社製品・技術等の宣伝・アピールコーナー

韓国
クラスター
ブース風景

日韓ブース内堀副知事来訪

開催日 平成25年11月15日(金)・16日(土)

場所 郡山総合体育館

参加人員 約9,500名

主催 郡山商工会議所、郡山地区商工会広域協議会
共催 郡山市、(公財)郡山地域テクノポリス推進機構
 郡山地域テクノポリス推進協議会

今年度は、昨年まで開催してきた郡山商工会議所の「こおりやまユニバーサルデザインものづくりフェア」と郡山地区商工会広域協議会の「ビジネスフェア夢商い」を一本化し、さらに県商工会連合会の「福島のおいしいもの食のフェア」も加わり開催されました。市内外から製造業や小売業、大学など約百四十の企業・団体が出展しました。

初日からイベント等もあり大勢の市民が訪れ、大盛況でした。

イベント内容

森崎友紀トーク&クッキング

テレビでお馴染みの料理研究家森崎友紀さんのトーク等

LANE@のビジネスセミナー

世界ベンチ・イス創作コンテスト作品展示・表彰式
 フラダンスショー

郡山市内のフラスタジオによる
 フラダンスの披露

郡山北工ロボットデモンストレーション

世界2位に輝いたロボットの実演

今泉女子専門学校ファッションショー

安積中学校合唱発表

コンクールで日本一に輝いた

美しいハーモニーを披露

ゆるキャラコーナー

大道芸スペシャルステージ

全国各地で活躍するプロの大道芸人が登場

抽選コーナー

わが社の売り込み商談会

こおりやま特産お歳暮フェア 等々



開会式



テクノブース



会場風景

平成25年度 理事会等の開催報告

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構

平成25年4月1日～平成26年3月31日

理事会

- 第1回** ○日時 平成25年6月14日(金)
○場所 インキュベーションセンター
○内容 平成24年度事業報告
及び決算ほか
- 第2回** ○日時 平成25年10月17日(木)
○場所 決議の省略の方法による開催
○内容 評議員会の招集決議
- 第3回** ○日時 平成25年10月29日(火)
○場所 ビッグパレットふくしま
○内容 常務理事の選定
及び事務局長の承認ほか
- 第4回** ○日時 平成25年11月19日(火)
○場所 決議の省略の方法による開催
○内容 平成25年度補正予算ほか
- 第5回** ○日時 平成26年3月24日(月)
○場所 ビッグパレットふくしま
○内容 平成26年度事業計画
及び当初予算ほか

監査会

- 第1回** ○日時 平成25年6月3日(月)
○場所 ビッグパレットふくしま
○内容 平成24年度事業及び決算

評議員会

- 第1回** ○日時 平成25年5月10日(金)
○場所 決議の省略の方法による開催
○内容 補充評議員3名、補充理事2名
並びに補充監事1名の選任ほか
- 第2回** ○日時 平成25年6月24日(月)
(定時) ○場所 インキュベーションセンター
○内容 平成24年度事業報告及び決算ほか
- 第3回** ○日時 平成25年10月28日(月)
○場所 決議の省略の方法による開催
○内容 補充評議員1名
並びに補充理事1名の選任
- 第4回** ○日時 平成25年11月28日(木)
○場所 インキュベーションセンター
○内容 一時借入れに伴う
借入限度額の設定について

平成26年度の主な事業・イベント

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構

会議関係

- 【 5月】 ・第1回評議員会(上旬)
・平成25年度決算監査
- 【 6月】 ・第1回理事会(上旬)
・定時評議員会(下旬)
・第2回理事会(下旬)
・郡山地域産業支援機関連絡会議
- 【 3月】 ・第3回理事会

アライアンス・研究会

- 【 6月】 ・アライアンス役員会・総会
- 【 7月】 ・第1回再生可能エネルギー・環境
共生推進研究会(7/10)
・第1回機能性材料・製造プロセス
研究会(7/30)
・第1回医療・福祉機器等関連事業
創出研究会
- 【10月】 ・第2回再生可能エネルギー・環境
共生推進研究会(10/23)
- 【12月】 ・第2回医療・福祉機器等関連事業
創出研究会
・第2回機能性材料・製造プロセス
研究会
- 【 2月】 ・アライアンス全体会

事業

- 【 4月】 ・助成事業第1回公募
(4/1～5/31)
- 【 5月】 ・インキュベーションセンター入
居者審査委員会
- 【 7月】 ・技術等審査委員会
・ちびっこマイスターズ・カレッジ
- 【 8月】 ・マイスターズ・カレッジ受講生募集
・インキュベーションセンター
入居者審査委員会
- 【10月】 ・マイスターズ・カレッジ2014
(10月～12月)
・助成事業第2回公募
(10/1～11/30)
・メティカルクリエーションふくしま2014
(10/29～30)
- 【11月】 ・第15回産学官連携フォーラム
・インキュベーションセンター
入居企業等成果発表会
- 【12月】 ・再生可能エネルギー産業フェア
2014(12/3～4)
・インキュベーションセンター
入居者審査委員会
- 【 1月】 ・平成27年テクノポリス新春講演会
・技術等審査委員会

郡山地域 ニューメディア・コミュニティ 総会・運営委員会の 開催報告

協議会総会

- 日時 平成25年4月24日(木)
○場所 ビッグパレットふくしま
プレゼンテーションルーム
- 内容 ・委員の選任について
・平成24年度事業実績
及び決算について
・平成25年度事業計画(案)
及び予算(案)について

運営委員会

- 第1回 運営委員会**
- 日時 平成25年10月3日(木)
○場所 インキュベーションセンター
- 内容 ・平成25年度上半期
事業報告について
・平成25年度下半期
事業計画について
- 第2回 運営委員会**
- 日時 平成26年2月12日(水)
○場所 インキュベーションセンター
- 内容 ・平成25年度事業報告及び
決算(見込み)について
・平成26年度事業計画(案)
及び予算(案)について

平成26年度の 主な行事・イベント

- 【 4月】 総会
- 【 5月】 ワークショップ
「わくわく!プログラミング
ワークショップ」
運営委員会
- 【 6月】 セミナー「セブン銀行ATM
リニューアルのすべて」
- 【 7月】 セミナー「知らないと困る、
著作権・契約・権利の話」
- 【 8月】 ワークショップ/セミナー
- 【 9月】 セミナー/運営委員会
- 【10月】 セミナー
- 【11月】 セミナー/ワークショップ
- 【12月】 IT交流プラザ
- 【 1月】 運営委員会
- 【 2月】 セミナー

※その他、運営委員会、事業部会等を
必要に応じて開催予定

役員・職員等の紹介

公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構 役員

【任期：平成24年6月26日～平成26年6月定時評議員会】 平成26年5月9日現在（順不同・敬称略）

理事長	丹治 一郎	郡山地域テクノポリス推進協議会会長 郡山商工会議所会頭
常務理事	齋藤 隆	郡山商工会議所常務理事
理事	福井 邦顕	日本全業工業(株)代表取締役会長
理事	渋谷 重二	郡山地区商工会広域協議会会長 富久山町商工会長
理事	岩谷 幸雄	郡山地域テクノポリス推進協議会副会長 玉川村商工会長
理事	出村 克宣	日本大学工学部長
理事	小沢 喜仁	福島大学副学長・地域連携担当
理事	小貫 正信	鏡石町産業課長
理事	吉田 純治	石川町産業振興課長
理事	永林 正典	玉川村産業振興課長
監事	目黒 芳裕	(株)大東銀行執行役員本店営業部長
監事	佐藤 哲郎	三春町産業課長

公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構 評議員

【任期：平成22年6月10日～平成26年6月定時評議員会】 平成26年5月9日現在（順不同・敬称略）

評議員	内藤 清吾	郡山商工会議所副会頭
評議員	作田 秀二	郡山商工会議所工業部会長
評議員	林 明博	須賀川商工会議所工業部会長
評議員	竹中 豊文	日本大学工学部教授
評議員	竹内 誠司	(株)東邦銀行常務取締役郡山営業部長
評議員	片桐 一夫	東北電力(株)郡山営業所長
評議員	長門 昭夫	(公財)福島県産業振興センター理事長
評議員	吉田 孝	福島県商工労働部 再生可能エネルギー産業推進監兼次長
評議員	飛木 孝久	須賀川市産業部長
評議員	渡辺 勝	郡山市産業観光部次長

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会委員

平成26年4月23日現在（順不同・敬称略）

会長	丹治 一郎	(公財)郡山地域テクノポリス推進機構 理事長
副会長	出村 克宣	日本大学工学部長
副会長	鈴木 正博	郡山商工会議所 情報文化部会長
委員	長谷部 一雄	須賀川商工会議所 会頭
委員	渋谷 重二	郡山地区商工会広域協議会会長
委員	岩谷 幸雄	玉川村商工会長
委員	阿部 晃造	郡山商工会議所 工業委員長
委員	天童 敏明	(株)NTT東日本-福島 郡山支店長
委員	酒井 良信	(株)エフコム 代表取締役社長
委員	水上 哲夫	(有)ばすわーど 代表取締役
委員	大山 一浩	福島県企画調整部情報政策課長
委員	林 千鶴雄	福島県商工労働部産業創出課長
委員	大河原 薫	福島県ハイテックプラザ 副所長
委員	阿部 哲郎	郡山市政策開発部部長
委員	飛木 孝久	須賀川市産業部長
委員	小貫 忠男	鏡石町総務課長
委員	吉田 純治	石川町産業振興課長
委員	永林 正典	玉川村産業振興課長
監事	筋内 研一	郡山市産業観光部部長
監事	鈴木 秀明	郡山商工会議所 開発事業部長

郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会 運営委員会委員

平成26年4月23日現在（順不同・敬称略）

委員長	杉山 安洋	日本大学工学部情報工学科 教授
委員	水上 哲夫	(有)ばすわーど 代表取締役
委員	水野 和彦	(有)ミスノ製作所 代表取締役
委員	新藤 純也	(株)コンピュータシステムハウス マネージャー
委員	藤田 和浩	(株)福島情報処理センター 郡山システム部長
委員	斎藤 正弘	(株)エフコム 副本部長
委員	仁井田 聡	福島県商工労働部産業創出課主任主査
委員	羽田 康浩	郡山市政策開発部ソーシャルメディア推進課長
委員	石堂 伸二	須賀川市産業部商工労政課長
委員	小貫 忠男	鏡石町総務課長
委員	吉田 純治	石川町産業振興課長
委員	永林 正典	玉川村産業振興課長

(公財)郡山地域テクノポリス推進機構・事務局

常務理事兼事務局長	齋藤 隆	郡山商工会議所出向
事務局次長兼総務部長	安藤 徹	福島県OB
企画管理課長	猪股 秀行	郡山市派遣
技術振興課長	佐久間直也	須賀川市派遣
新事業支援課長	鈴木 一哉	大東銀行出向
インキュベーションマネージャー兼技術コーディネーター	佐藤 彰	
技術コーディネーター兼サブマネージャー	池浦 清一	
管理員兼サブマネージャー	佐藤 喜幸	
技術指導員(非常勤)	中井 浩二	
情報支援総務担当		
(郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会)	村上 瑞恵	
本部総務担当	鈴木 琴子	
インキュベーションセンター総務担当	久保田江美	



お問い合わせ／ご相談はお気軽にご連絡ください

■編集／発行 公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構／郡山地域ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会

〒963-0115 福島県郡山市南二丁目52番地 ビッグパレットふくしま3階 TEL.024-947-4400／FAX.024-947-4475
E-mail techno@nm.net6.or.jp URL http://www.techno-media.net6.or.jp/



紙へリサイクル可 この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
この印刷物は、FSC®認証紙と環境にやさしい植物油インキを使用しています。